

ファースト

ストーリー

ある満月の夜に起こった殺人事件。陵辱された若い娘の死体からは大量の血液が抜き取られており、その首筋には牙で突き刺したかのような痕が2つ残っていた。恐怖する街中の人々は、事件をこうよんだ。「ヴァンパイア事件」と……。

事件が起こったちょうどその夜、大学の研究所に勤める主人公エドワード・デップは、不思議な少女に出会っていた。そして、その少女に対していままで自分の中に感じたことのない感情が芽生えていくのを感じていた。



選択肢について

ストーリーの中で表示される選択肢によってキャラクターの好感度が上下する。その好感度の高さによって物語の展開が変わってくる。クリスとエリーについては、第五章の時点で好感度が高い方がファーストの標的になる。好感度が同じ場合は、クリスが優先される。好感度がどう上下するかについては、次のページからの表を参照してほしい。

選択肢における好感度上下一覧表

第一章・第二章

第三章・第四章

第五章・第七章

エンディング判定について

第六章でマリアンナから提示される選択肢のうちで選んだ方と、フィーの好感度の高さによってエンディングが判定される。

【1】命を捧げる を選択した場合、フィーの好感度が10を超えていなかった場合は、「エンドA」になる。

【2】呪いの供物となる を選択した場合、フィーの好感度が10を超えていなかった場合は「エンドB」に、好感度が10を超えている場合は「エンドC」になる。



第一章

ちゃんと仕事に行く クリス+1
さりげなく散歩に出る クリス±0
「……今日は二度寝の日なんですよ？」 クリス-1

書棚の迷路を探してみる クリス+1
校舎の外を探してみる クリス±0
廊下でお茶でも淹れているのか……? クリス±0

「……女学生みたいな台詞は似合わないぞ。さすがに」 クリス+1
「……ごめん」 クリス+2
「俺にあしらわれるような女じゃないだろ」(小声) クリス+1

「……ごめん!」 エリー+1
ねこパンを拾う エリー+1
エリーを叱る エリー±0
知らない風をよそおう エリー-1

一番街 エリー±0
二番街 エリー+1
三番街 エリー±0
四番街 エリー±0

パンの本 エリー+1
料理の本 エリー+1
動物の本 エリー±0
エッチな……本 エリー-1

第二章

今夜は野犬が出ると言って脅す エリー+2
さらなるお土産を示唆して釣る エリー±0
とにかく外へ出ないように頼む エリー+1

第一の殺人現場 フィー±0
第二の殺人現場 フィー±0
エリーの店 フィー±0
大学周辺 フィー+1

「……前にも会ったね」 フィー-1
沈黙する フィー±0
「きみが事件の犯人なのか——？」 フィー+1

ごまかす フィー+1
嘘を言う フィー±0
正直に言う フィー-1

ドアを開ける クリス-1
待つ クリス±0
あきらめる クリス+1

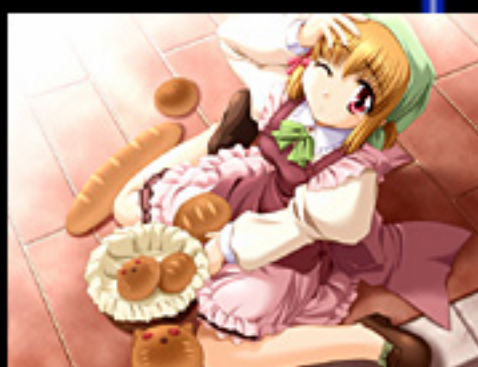
一体なぜここにいるのか フィー-1
昨夜の出来事を確認する フィー±0
どうして昨夜逃げたんだ フィー+1



エリーシア・ライトオール

エドワードの幼なじみで、エドワードのことを「お兄ちゃん」と呼んで慕っている。パンを作るのが得意で、パン屋の店長でもある。普段は元気で明るいが、泣き出すとなかなか機嫌が直らない。ややドジっばいところがある。

▶ エドワードとぶつかってパンを落としてしまったエリー。そのショックで泣きそうになるエリーをエドワードはなだめようとする。



◀ お酒を飲んだとたんに関醉っばらってしまったエリー。暴れた勢いでこめかみにキックされたマーティンは床をのたうち回る。ご愁傷様……



無難に天気の話でも
その資格好について
この街について

フィー+1
フィー+1
フィー±0

理学や工学の第一棟
研究室のある第二棟
社会学の北館
学生会館の南館

フィー±0
フィー+1
フィー±0
フィー±0

「期待してるよ」
やはり黙っておくことにする
「……ちゃんと食べられるものが出てくるんだよな」

フィー±0
フィー-1
フィー+1

ポテトサラダ
魚のフライ
ミートローフ

エリー+1
エリー±0
エリー-1

フルーツ盛り合わせ
ゼリー
焼き菓子

エリー±0
エリー+1
エリー-1

「これから様子を見に行くんだけど、行くかい」
「心配要らない。そのうち元気になるさ」
「……嫌われているんじゃないのかい」

エリー±0
エリー-1
エリー+1

第四章

「覚えてないなあ」
「いや。そうだったような気がする」
「……」

クリス±0
クリス+1
クリス-1

「……」 黙って見送る。
「フィー。小刀は？」
「フィーも手伝ってくれないか？」

クリス+1、フィー-1
クリス±0、フィー+1
クリス-1、フィー±0

「いらない」
「砂糖を少し」
「ブランデーがいいな」

クリス±0
クリス+1
クリス-1

触らぬ神に祟り無し。
喧嘩両成敗。
情けは人のためならず。

フィー+1
フィー-1
フィー±0

フィー・アズナバー

本作のヒロイン。エドワードとは初めて殺人事件が起こった夜に出会い、二度目の再会で自分がヴァンパイアであることをエドワードに明かす。その一方で人の血を吸うことを拒んでいる。口調はきつい根は優しい少女。古風な言い回しを好んで使う。

▼想いが通じ合い、エドワードとフィーは結ばれる。フィーのメイド服がはだけた姿も魅力的である。



▶エリーといっしょに料理をするフィー。調理しようとした魚がまだ生きていたため、怖くてフィーにすがりつくエリー。フィーもたじたじ。

◀フィーとそのつきそい人であるマリアンナ。二人は何を目的としてこの街にやってきたのだろうか？



第五章

「吸血鬼という存在と、彼女たちについて……」 クリス±0
 「ごめんなさい。寝てました。」 クリス+1
 「ニイジマ・タカハシ予想の考察を……」 クリス-1

「ああ。ありがとう」 エリー+1
 「今日は転ばなかった？」 エリー±0
 「あれ？頼んだっけ？」 エリー-1

「どうかした？」 エリー±0
 「ドアはあっちだよ」 エリー+1
 見守る エリー-1

「どうして、そうつながる？」 クリス±0
 「別にかまわないけど……」 クリス+1
 「明日な」 クリス-1

「なんでもないさ」 フィー-1
 「キミと二人っきりだから…」 フィー+1
 「風邪かな？」 フィー±0

「旅がしたい……」 フィー+1
 「楽がしたい。かな」 フィー-1
 ………思い出せない フィー±0

「最近どうだい」 フィー±0
 「エリーと仲がよいみたいだね。」 フィー+1
 「マリアンナさんは元気？」 フィー-1

一人 クリス-1
 二人 クリス±0
 三人 クリス+1

猫の絵の入ったマグカップ エリー+1
 猫の絵の入ったエプロン エリー±0
 ハーレークイン エリー-1

※エリールートの場合の選択肢です。
 右に曲がる フィー-1
 左に曲がる フィー±0

※クリスルートの場合の選択肢です。
 右に曲がる フィー±0
 左に曲がる フィー-1

第七章

「うん。相変わらず美味しい」 フィー+1
 「お茶の話なんか……」 フィー-1
 「……………美味しいよ」 フィー±0

フィーの言葉に従う フィー-1
 それだけは出来ないッ フィー+1



クリスティーナ・リヴオン

エドワードの同僚で、大学の研究室に勤めている。エドワードには好意を持っているようで、主人公の生活について心配してくれたりと常に気を遣ってくれている。真面目な性格であるが、お茶目な一面も持っている。

▶部屋の外で待ってと言われていたエドワードだが、待ちきれずに扉を開けてしまうと……？



いつもエドワードのことを気遣ってくれるクリス。いい同僚である。